

編集後記

皆様の御協力により、予定通り高知大学看護学会誌第13巻第1号を発行することができました。本号は、原著3編と報告1編および第13回高知大学看護学会の講演の報告からなっています。今年もお陰様で盛りだくさんで、編集委員会としましても大変嬉しく思っています。

さて、この編集後記を書き始めようとした日に、朗報が入ってきました。2019年のノーベル化学賞を吉野彰氏（旭化成名誉フェロー）が受賞しました。吉野氏はスマートフォンや電気自動車などに広く使われる「リチウムイオン電池」の開発者です。その吉野氏が受賞後のインタビューでいつも笑顔でいる理由を問われると、座右の銘の「実るほどこうべを垂れる稲穂かな」を紹介しながら、「実って世界で通用するようになったらこうべを垂れるが、逆に実るまでは頭を垂れてはだめで、若い人はシャキッとてなさいということです。私は年を取り一応実ったのでこうべを垂れて笑顔ですが、若い人は頭をたれてはいけないと思います」と若い世代を激励しました。リチウムイオン電池は、吉野氏が取り組んだ四つ目の研究テーマだったそうです。失敗の中で鍛え上げられ（その頃は、シャキッとされていた）、失敗から得た教訓が画期的な発明に導きました。

さて看護研究は、質的研究と量的研究が主ですが、実験研究の重要性も言われています。日頃の看護の実践で持った課題に対して、実験研究で結果を出すことも一つの方法です。実験研究の成果をまとめた論文の投稿もお待ちしています。

最後になりましたが、今回投稿された方並びに論文査読にご協力いただきました方々に感謝申し上げます。

高知大学看護学会誌編集委員会

委員長：溝渕俊二

委員：杉本加代